



【野辺地西―大湊】6回表、野辺地西2死一、二塁、柴田が右中間に放った二塁打で2者が生還、4-1とリードを広げる。捕手・木村（八戸市東運動公園）

# 野辺西15得点

## 大湊 5投手の継投不発

【評】野辺地西は1点をリードして迎えた六回、単打と死球などで好機を広げると、柴田の右中間を破る適時二塁打と川原の左前適時打で3点を奪って突き放した。八回は打者一巡の猛攻で大量10得点。先発全員安打と打力で圧倒し、コールド勝ちを収めた。

大湊は長打が出ず、連打も六回のみと得点は2点どまり。5投手の継投も不発に終わった。

自在な攻めで追加点

○：「強いライナー性の打球」、そして「逆方向へ」。野辺地西が打撃で持ち味を発揮したのは追加点の欲しかった六回だった。

左打者の柴田が思い切り引張って2点適時二塁打。逆に同じ左打者の主砲川原は、コンパクトに流し打つ適時打を放った。「どんなタイプの投手も打ち崩せる対応力が自慢」（川原）。強烈な砂嵐で試合が何度も中断する中、自在な攻めで勝利をたぐり寄せた。

次の相手は打力が自慢の東奥義塾。川原は「今回の大勝を勢いに変え、勝ちたい」と話した。

春季

# 県高校野球

第1日

春季県高校野球選手権は15日、八戸市と七戸町の3球場で開幕し、1回戦6試合を行った。弘前中央―三沢商は、4点差を追いついた三沢商が九回、大森陽汰の決勝打でサヨナラ勝ち。弘前東は延長十二回、押し出し死球による決勝点で、明の星との息詰まる大熱戦を制した。青森商は後半に打線がつかない、八戸にコールド勝ち。そのほか八工大二、三本木、野辺地西が勝利し、2回戦へと駒を進めた。2日目の16日は2回戦8試合を実施。青森山田―八戸学院光星というライバル校同士の好カードも組まれていく。

（本紙取材班）